

カルバマゼピンを含む向精神薬服用後に自動車に轢過された交通事故死の一例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本法医学会 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石井, 晃, 妹尾, 洋, 渡部, 加奈子, 鈴木, 加奈子, 鈴木, 修, 勝又, 義直 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/1837

8. カルバマゼピンを含む向精神薬服用後に自動車に轢過された交通事故死の一例

石井 晃¹⁾ 妹尾 洋²⁾

鈴木 (渡部) 加奈子²⁾, 鈴木 修²⁾

勝又 義直¹⁾ (¹⁾名大, ²⁾浜松医大)

カルバマゼピン (CBZ) を含む向精神薬の関与が推定された交通事故死例を報告する。

被害者は60歳の男性で、躁病で外来治療を受けており、症状は改善していた。事故当時の処方薬は、ブロムペリドール3mg、塩酸ビペリデン3mg、(CBZ)600mg、フルニトラゼパム (FN) 1mg/分3であった。同男性は午後9時30分頃 CBZ200mg と FN 1mg を服用後外出し、約1時間後自宅近くの路上で横臥した状態で轢過された。

本屍は身長155cm、体重33kg。外表では、頭部、顔面及び頸部を中心に表皮剥脱を著明に認め、内部所見では顔面骨の複雑骨折、頭蓋底両錐体部の蝶番骨折、橋の挫滅が認められ、左肋骨の複雑骨折、両肺及び肝挫滅、左背部の筋肉内出血も認めた。死因は脳幹部損傷であった。

血中及び尿中よりアルコールは検出されず、固相抽出で体液中薬物を抽出し、GC-NPD で CBZ、GC-ECD により FN の検出を試みた。血中及び尿中の FN は検出限界以下だったが、CBZ は血中で8.55 μ g/ml、尿中で2.76 μ g/ml であった。

本例では上記被害者が横臥していた理由が問題となる。CBZ の治療域は 4～12乃至 6～12 μ g/ml と幅があり、9 μ g/ml 以上で中枢神経系の副作用の出現頻度が上昇するという。CBZ の副作用には眠気や小脳失調等があり、本例の血中濃度ではフルニトラゼパムとの相互作用で傾眠状態になった可能性は否定できない。泥酔状態で路上で轢過される事例は時に経験するが、本例のように薬物服用後に路上で轢過された例はまれと思われる。